

耕作放棄地解消しブドウ栽培

【兵庫】川西市の遠藤薫さん(55)は、2022年に北摂ワイナリー(株)を設立して就農。50坪の農地で醸造用ブドウのほか、野菜やタリアを栽培しており、24年からは市の農業委員も務めている。

遠藤さんは非農家の出身で長らく旅行業に従事し、旅行で訪れたキューバでスペイン語に惹かれ、中米でブドウを栽培し、友人・知人の協力で耕作放棄地を開墾し、ブドウ栽培をスタートさせた。

今年の目標は初めてのワインづくり。「夢と希望しかない私ですが、たくさんの人に助けてもらってここまで来れた。これからも感謝の心で農業を楽しみたい」と笑顔が輝いた。(山口昭彦)



川西市 遠藤薫さん

「感謝の心で農業楽しむ」

【兵庫】川西市の遠藤薫さん(55)は、2022年に北摂ワイナリー(株)を設立して就農。50坪の農地で醸造用ブドウのほか、野菜やタリアを栽培しており、24年からは市の農業委員も務めている。

遠藤さんは非農家の出身で長らく旅行業に従事し、旅行で訪れたキューバでスペイン語に惹かれ、中米でブドウを栽培し、友人・知人の協力で耕作放棄地を開墾し、ブドウ栽培をスタートさせた。

今年の目標は初めてのワインづくり。「夢と希望しかない私ですが、たくさんの人に助けてもらってここまで来れた。これからも感謝の心で農業を楽しみたい」と笑顔が輝いた。(山口昭彦)

農園のある美しい里山で遠藤さん

SNSで有田みかんの魅力を発信

【和歌山】「ミカンで世界をもっと『オモシロク』」をモットーに、SNSで有田みかんのおいしさや魅力を発信しているのは、有田川町の「みかんのみっちゃん農園(株)」で代表を務める小澤光範さん(36)だ。

SNSが普及する前からインターネットをコミュニケーションツールとして活用し、精力的なブランディングに取り組んでいる。同社は昨年法人化。温州ミカンを中心に60種類の柑橘を約4畝栽培し、インターネットを通じて毎年約1万人の消費者に販売しているほか、海外7カ国へ輸出している。

また、就業体験として、和歌山県への移住や就職を検討している社会人・学生をこれまでに100人以上受け入れ、また、県内の小学生を対象とした食育活動にも取り組んでいる。

小澤さんは「自社の活動を地域の活性化や雇用創出につなげたい」と話す。(田村健伍)



有田川町 小澤光範さん

「ミカンで世界を『オモシロク』」



夢を叶えて地域にも貢献!!

カフェ、加工場、ショップの複合施設オープン

【奈良】「地元の恵みを多くの人に味わってもらおう夢を実現したのが、堀内果実園Land」と話すのは、五條市で柿など季節の果物を栽培する(株)堀内果実園の堀内俊孝代表取締役(54)。

同社は昨年8月、カフェや加工場、市内産農産物をふんだんに使用したパフエやパンケーキなどのメニューを味わうことが出来る。

そのほか、イチゴ狩りなど期間限定の収穫体験や、かき水づくり体験ができ、食の学び場として、地元特産品の価値を伝える役割も担う。

堀内代表は「Landにお越しただき、五條市が誇る果物の魅力を楽しくもらいたい」と話す。(木村将史)



五條市 堀内俊孝さん

持続可能な農業を追求

【京都】12年前に移住した福知山市三和町で、「組織として持続できる農業を展開し、地域の役に立ちたい」と農業法人「(株)SeaSon」を設立した久保世智さん(45)。ハウス75坪と露地45坪で特産「万願寺とうがらし」を中心に生産している。

これまで日本人とワーキングホリデーの外国人を合わせて50人以上雇用し、経営規模を順調に拡大してきた。同社で出会ったスタッフが国際結婚し、新規就農者として地元に着するなど、過疎化が進む地域の活性化にも貢献している。

若いスタッフとともに栽培方法の改善や省力化の工夫を重ね、地域最大の万願寺とうがらし生産者となった久保さんは、遊休農地の発生防止や特産物の生産振興に力を入れており、今年から丹波黒大豆の枝豆「紫すきん」の栽培にも挑戦する。

農地利用最適化推進委員として、仲間とともに新規就農者の受け入れにも取り組んでいる。



福知山市 久保世智さん

万願寺とうがらしで地域活性化

和歌山県農業会議

「楽しく働ける農業めざす」

【滋賀】「看護学校を2年生のときに中退したことが人生の分岐点」と語るのは、守山市にあるvitaの出口湧己さん(30)の写真。

周りの畑がある環境で育ち、わくわくする仕事に就きたいとの思いから、2022年4月に地元の小浜町で新規就農した。

現在は、枝豆、イチジク、ナバナ、ホウレンソウなど総面積約3.5畝を栽培している。

出口さんは、遊休農地約1.8畝を自ら開墾。琵琶湖特産の真珠貝を肥料として活用した「もりやまびわこパール野菜」を生産し、黒枝豆を「vitaの黒真珠」として販売するなど、独自ブランド化にも挑戦している。

また、高齢化で存続が危ぶまれていた地元イチジク生産組合についても、同市の若手農業者と連携して栽培を継続して、地域特産品を守っている。

出口さんは「農業者不足は大きな課題だが、地域の人が楽しく働ける場をつくり、わくわくする農業を広めていきたい」と笑顔で話した。(福井かれん)



守山市 出口湧己さん

「子どもたちに農業と触れ合う機会を」

「サツマイモ『夢シルク』で農業体験

【大阪】八尾市の農地を中心にサツマイモを「夢シルク」のブランド名で生産しているのは、「(株)オオサカポテト」代表の渡邊博文さん(32)。

地元JAからあつせんを受けるなどして遊休農地を借り受け、毎年約2畝ずつ規模拡大し、現在は約6.5畝で経営している。

広告代理店に勤務する傍ら週末農業を行う中で、「都市住民や子どもたちに農業と触れ合う機会を提供したい」と話す渡邊さん。

また、学童農園のほか、福祉施設利用者の雇用など、農福連携活動にも熱心に取り組んでいる。

渡邊さん。「1年目から畑と子どもたちをつなぐ取り組みが実現できた。今後はさらに規模拡大を図り、大阪をサツマイモの産地にしたい」と話す。(林佑一郎)



八尾市 渡邊博文さん

「夢シルクをもっと広げて子どもたちへ自然豊かな未来を届けたい」と話す渡邊さん

近畿

近畿総局

和歌山県農業会議

和歌山県茶屋ノ丁2番1

和歌山県自治会館6階

073・432・6114

077・523・2439

075・441・3660

0742・221101

和歌山県農業会議

和歌山県茶屋ノ丁2番1

和歌山県自治会館6階

073・432・6114

077・523・2439

075・441・3660

0742・221101

0742・221101